

わらしべちょうじゃ

むかしむかし、あるところに、まずしいわかものがいました。

あるひ、わかものはおてらにいくと、かんのんさまにおいのりをしました。「どうか、おかねもちになれるように。」

あさからばんまで、いっしょうけんめいおいのりをしていると、かんのんさまがあらわれていました。「ここからでて、いちばんさいしょにつかんだものが、おまえをおかねもちにしてくれるだろう。」



わかものはよろこんでおてらをでると、いしにつまづいてころびました。

そのひょうしに、いっぼんのわらしべをつかみました。

「かんのんさまがいていたのは、このことか？」

わかものがわらしべをもってあるいていると、いっぴきのあぶがとんできました。

わかものはあぶをつかまえると、わらしべでむすんで、とぼしながらあるいていきました。

するとむこうから、ちいさなこどもがおかあさんとやってきていました。

「あのあぶがほしいよう。」

わかものがこどもにあぶをあげると、おかあさんがおれいにみかんをくれました。

「わらしべがみかんになったぞ。」



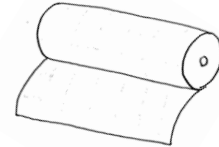
またあるいていると、みちばたでむすめがたおれています。

「のどがかわいてあるけません。だれか、みずをくださいな。」



わかものがみずのかわりにみかんをあげると、むすめはげんきになりました。そして、おれいにきれいなぬのをくれました。

「みかんがぬのになったぞ。」



またあるいていると、うまがたおれてこまっているおとこがいました。

「いそいでまちにいかなくてははいけないのに、うまがびょうきになってしまったのです。まちでぬのをかわなくてはいけないのに、どうしたらよいでしょう。」

「では、このぬのと、うまをこうかんしてあげましょうか。」

わかものがそういうと、おとこはよろこんで、ぬのをもってかえりました。

わかものが、うまにみずをあげたり、からだをなでたりすると、うまはげんきになりました。

「ぬのがうまになったぞ。」



わかものがうまをつれてあるいていると、ひっこしをしているおやしきがありました。

おやしきのしゅじんは、わかものをみつけるといいました。

「たびにでることになったのだが、うまがないのじゃ。わしのやしきとうまをこうかんしてくれないかね。」

わかものがびっくりしていると、おやしきからむすめがでてきました。むすめはわかものをみると、いいました。

「おとうさん、このかたがわたしにみかんをくれて、たすけてくれたかたよ。」

わかものがむすめのかおをみると、みちばたにたおれていたむすめではありませんか。むすめのはなしをきいたしゅじんはわかものにいいました。

「わしのやしきにすんで、むすめとけっこんしてくれないかね。どうだね、むすめや。」

むすめはほほをあかくして、にっこりとわらいました。

こうしてわかものは、むすめとけっこんし、おやしきとはたけをもらっておおがねもちになりました。

いっぼんのわらしべからおかねもちになったので、みんなはこのわかものを、わらしべちょうじゃとよぶようになりました。